



題字：桂川中学校美術部
鎗水 光咲 さん

■大人の役割

桂川小学校 校長 大庭 公正

三学期も半ばとなり、六年生は卒業に向けての取り組みが進んでいるところです。六年生には、この学校で学んだことを誇りに、希望を持って中学校生活に向かってほしいものです。

他の学年も一年間のまとめをする大切な時期です。その学年の学習内容はもちろん、今、身に付けるべき基本的な生活習慣をしっかり身に付けて、「こんなことができるようになったよ」と胸を張って、修了式を迎えてほしいものです。

さて、めまぐるしく社会が大きく変化する中、子どもたちがこれから生きていく社会は、何が待っているかわかりません。先行き不透明な時代だからこそ、子どもたちには、ぜひ心身ともに頑丈な生き方のできる人に育ってほしいと願っています。

そのためには、大人総ぐるみで育てて取り組む姿勢が大切だと思います。もちろん親が子が教えるべきことはたくさんありますが、子どもたちが成長するにつれ、親ではなく、むしろ他人に教わるのがたくさんあります。何よりも将来の自立に向け、誰もがすべきことをきちんとできるようにすることが大切です。

また、子どもの成長には、大人の妥協しない姿勢も大切ではないでしょうか。子どもの人格を尊重した上で、周りの大人の持つ人生経験や知恵を生かした関わりがとても大切だと感じます。本気で叱ってくれる大人の存在は、子どもの成長に欠かせません。人間は、人のふれあいによって安心感が生まれ、人を受容しようとする広い心が生まれます。

子どもたちには、縦にも横にも幅広い、容量の大きな人間になってほしいと願っています。子どもの成長に大人の役割は大きいものがあります。大人がスクラムを組んで、子どもを育てていく覚悟が必要だと感じます。



■一年間を振り返って

桂川東小学校 校長 西園 浩一

本年度は「人権の花」の取り組みで、町の人権擁護委員さん方にお手伝いいただき、ひまわりの花を育てました。思っていた以上に、太い幹、背丈も伸び、立派な花を咲かせました。刈り取った後のおそらく落ちた種から発芽したものは、11月まで花を咲かせました。

毎日、ひまわりの成長を見るたびに、学校もしっかりと取り組みを進め、子どもたちを伸ばしていかなければと思った次第です。

「本校が目指す子ども」どれくらい達成できているでしょうか。

「ひととのかかわり」

大切にできる子ども

縦割り活動や委員会活動は上学年の子どもたちを中心に、よくがんばっています。さわやかな挨拶や返事を、来校者や地域の方々、そして友だちに自分からできるようになってきました。自分の気持ちをきちんと伝え行動に表すことは、大人でも難しいことが多いです。しかし、様々な取り組みのいろいろな場面を通して、上手に思いや気持ちを伝えることができるような人になってほしいという願いを持っています。

「がんばり抜く心」

体を持った子ども

昼休みに外で遊んでいる姿が、多く見られます。本校の子どもたちのいいところは、学年を超えて遊んでいることが多いことです。マラソン大会や縄跳び大会の練習もがんばりました。

本年度から、縦割りで「スポコン広場」に挑戦しています。それぞれのグループで記録更新を目指して練習しました。

「しっかりと学ぶ子ども」

毎朝のモジュールタイムでは、計算練習や視写、慣用句など、どの学年もがんばりました。本校では、国語の「書くこと」について学校全体で取り組んでいます。子どもたちが物事をしっかりと観察して順序よく紹介したり、自分の考えを相手に分かりやすく述べたりできるようにするための授業改善を行っています。

また、たくさんのゲストティーチャーの方々に授業に入っていたいただき感謝しています。授業はとても落ち着いて取り組んでいます。これからも、どの教科でも、子どもたちが「頭を働かせる」授業づくりをしていかなければと考えているところであります。